

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第49週〔12月5日～12月11日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/  
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 感染性胃腸炎の集団発生について

幡多福祉保健所管内の乳幼児施設で、今冬シーズン初めてサポウイルスによる感染性胃腸炎の集団感染が発生した。定点からの感染性胃腸炎の報告数も増加が続いており、今後は注意が必要である。

サポウイルスとは、感染性胃腸炎を引き起こす原因ウイルスの一つで、嘔気、嘔吐、下痢などノロウイルスと同様の症状を呈する。予防や消毒も同様で、帰宅後の手洗い・うがい、食事前やトイレの後は必ず手を洗い、消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用するか、85℃で1分以上の加熱が必要である。

## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：感染性胃腸炎，流行性耳下腺炎，マイコプラズマ肺炎

- 前週とは一変して気温は低くなり、冬らしい気候となった。
- 感染性胃腸炎**（高幡：注意報→警報，高知市：注意報→注意報）は中央東で減少したが，その他の地域で増加し，総数は引き続き増加し注意報値を超した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（中央西：注意報→注意報）は安芸で増加したが，その他の地域で減少または横ばいとなり，総数は減少した。
- RSウイルス感染症**は今週も引き続き増加した。例年通り増加傾向となっており，今後も流行のピークに向かって増加すると思われるので，注意が必要である。
- 流行性耳下腺炎**（中央西：注意報→警報，幡多：警報→注意報）は中央西で急増し警報値を超した。総数は引き続き増加し，再び注意報値を超した。週によって増減しているが，増加傾向は続いており，今後は注意が必要である。

上位疾患構成図



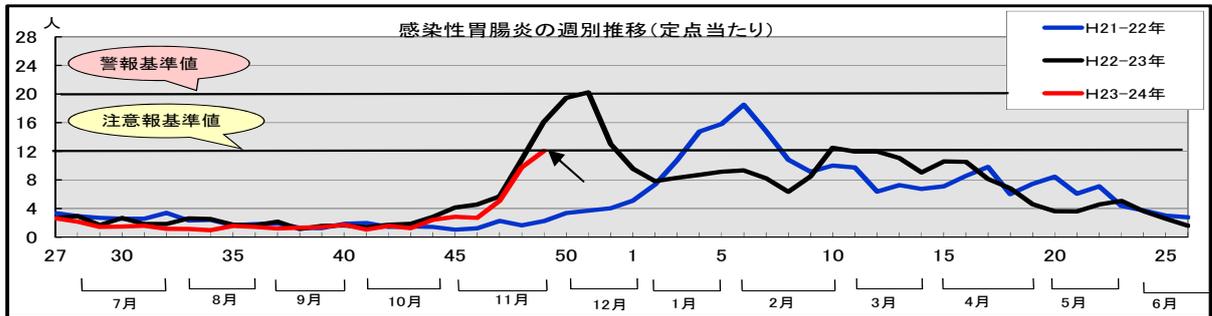
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第49報（2011年12月5日～2011年12月11日）



**感染性胃腸炎：今週 12.07 (注意報値：12.00 警報値：20.00)**

総数は引き続き増加し、注意報値を超した。高幡では警報値を超している。高知市と高幡から搬入された検体から、Norovirus GIIが8件検出され、今後も報告数の急増が続くと思われるので、注意が必要である。帰宅後の手洗い・うがい、食事前やトイレの後は必ず手を洗い、予防して欲しい。感染力が強く、2次感染にも注意が必要である。



**インフルエンザ：今週 0.13 (注意報値：10.00 警報値：30.00)**

今週は計6例報告され、迅速キットの結果は全てA型陽性であった。例年12月中旬から報告数が急増しており、今後の推移が注目される。

**マイコプラズマ肺炎：今週 1.14 (注意報値：0.50 警報値：2.00)**

報告数は再び急増し、注意報値を超した。搬入された検体からは、*Mycoplasma pneumoniae* 7件が検出されており、今後も注意が必要である。

**検査情報**

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
49	感染性胃腸炎	7ヵ月 男	高知市	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	1歳 男	高知市	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	3歳 男	高知市	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	1歳 女	高幡	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	3歳 女	高幡	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	1歳 男	高幡	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	2歳 女	高幡	Norovirus GII NT
49	感染性胃腸炎	1歳 女	高幡	Norovirus GII NT
49	肺炎	4歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	マイコプラズマ肺炎	12歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	マイコプラズマ肺炎	5歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	百日咳	1歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	マイコプラズマ肺炎	12歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	マイコプラズマ肺炎	10歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	マイコプラズマ肺炎	7歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
49	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9歳 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況	備考
41	ヘルパンギーナ	9ヵ月 男	高幡	Coxsackievirus A10	
43	肝炎	2歳 男	高知市	Coxsackievirus B2	同一人異検体からもCB2検出済み
41	気管支炎	1ヵ月 男	高知市	Echovirus 6	
48	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7歳 女	高幡	<i>Streptococcus pyogenes</i> T25	

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 11例 (60,80代男:各2例, 30,40,80代女) 《高知市》 (10代男:2例) 《須崎》 (80代女) 《中央東》 (80代女) 《幡多》 (今年181例)  
 4類感染症：つつが虫病 1例 (70代女) 《中央東》 (今年1例)

○ 定点からの地域ホット情報

幡多

《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 2例 (1,4歳女)  
 膿痂疹 1例 (0歳女) マイコプラズマ感染症 1例 (2歳男)

須崎

《もりはた小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (1歳男) カンピロバクター腸炎 1例 (1歳女:48週)  
 マイコプラズマ肺炎 3例 (10歳, 12歳:2例)

## 中央西

- 《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（3歳女） マイコプラズマ肺炎 1例（11歳女）  
インフルエンザの1例はA型陽性  
《日高クリニック》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳男）  
マイコプラズマ気管支炎 3例（3,6歳男, 8歳女）  
百日咳の1例は東浜株5120倍, 山口株5120倍

## 高知市：

- 《細木病院小児科》：感染性胃腸炎の21例中11例は迅速キットでノロウイルス陽性、  
うち1例はロタウイルスも陽性  
《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女） 帯状疱疹 1例（8歳女）  
感染性胃腸炎のうち2例はサルモネラ腸炎0-9（10歳女, 1歳男）  
百日咳の1例（10歳男）は東浜株1280倍, 山口株1280倍, DPT4回済み  
マイコプラズマ肺炎 3例（3,9歳女, 10歳男）  
《ふないキッズクリニック》：感染性胃腸炎の1例（9ヵ月男）は迅速キットでノロウイルス陽性  
《はまだ小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性  
《細木病院内科》：インフルエンザの1例（30代女）はA型陽性, 予防接種歴なし

## 中央東

- 《高知大学医学部付属病院小児科》：感染性胃腸炎の7例中4例は迅速キットでノロウイルス陽性  
《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（27歳） アデノウイルス感染症 2例（1歳）  
《早明浦病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 2例（6,13歳男）  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が引き続き増加している  
《野市中央病院内科》：インフルエンザの1例（32歳男）はA型陽性

## 安芸

- 《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの1例（6歳男）はA型陽性  
《田野病院小児科》：インフルエンザの1例（10代男）はA型陽性

## 全国情報第47週（11/21～11/27）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核275例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症31例（有症者24例、うちHUS 2例）

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎1例、つつが虫病26例、デング熱6例、日本紅斑熱1例、ボツリヌス症1例、マラリア1例、レジオネラ症13例

5類感染症：アメーバ赤痢4例、ウイルス性肝炎（B型）3例、急性脳炎1例、後天性免疫不全症候群15例（AIDS 3例、無症候10例、その他2例）、髄膜炎菌性髄膜炎1例、梅毒11例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん5例、麻しん5例

報告遅れ：E型肝炎1例、エキノコックス症1例、日本紅斑熱4例、髄膜炎菌性髄膜炎1例

## ◆水痘

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）の初感染によって発生する急性の伝染性疾患である。感染力は極めて強く、空気（飛沫核）感染、飛沫感染、接触感染によってウイルスは上気道から侵入し、ウイルス血症を経て、通常は2週間前後（10～21日）の潜伏期間を経て発病し、発疹、倦怠感、発熱を主症状として発症する。発疹は全身性で掻痒を伴い、紅斑、丘疹を経て短時間で水疱となり、痂皮化する。通常は最初に頭皮、次いで体幹、四肢に出現するが、体幹にもっとも多くなる。数日にわたり新しい発疹が次々と出現するので、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在することが特徴である。通常は小児期に好発する予後良好な疾患であるが、細菌の二次感染（敗血症を含む）、髄膜脳炎、小脳失調、肺炎、肝炎などの合併症がある。成人が発症すると重症となる場合が多い。有効な抗ウイルス薬が開発され予後は改善したものの、現在においても免疫抑制状態下に発症すると時に致死的である。さらに、水痘に罹患し治癒した後でも、ウイルスは終生その宿主の知覚神経節に潜伏感染している。この潜伏しているウイルスが免疫抑制状態あるいは高齢化に伴って再活性化し、将来にわたって帯状疱疹を発症する可能性が約20%あるといわれている。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて水痘をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。水痘の定点当たり報告数は2011年第42週以降増加が続いており、第47週は1.77（報告数5,548）となった。2001年以降の同時期の定点当たり報告数としては2003年、2010年に次いで高い値となっている。都道府県別では福井県（4.55）、佐賀県（3.65）、岩手県（3.63）、山形県（3.17）、宮城県（2.90）、北海道（2.59）、大分県（2.58）の順となっており、38都道府県で前週より増加が見られている。2011年第1～47週の定点当たり累積報告数は64.05（累積報告数200,620）であり、男女別では男性52.2%（104,659）、女性47.8%（95,961）と男性がやや多く、年齢群別では2～3歳35.6%（71,453）、4～5歳25.5%（51,126）、0～1歳24.9%（49,966）、6～7歳8.7%（17,475）の順であり、例年と同様に5歳以下で全報告数の85%以上を占めている。

水痘には世界に先駆けて日本国内で開発されたワクチンがあるが、定期予防接種ではなく、その接種率は低く、国内における蔓延状況をコントロールするには程遠いと言わざるを得ない。特に保育施設等の乳幼児の集団生活施設では、毎年のように集団発生が繰り返されている。基本的には予後良好の疾患と言われているが、免疫抑制状態にある者へ感染伝播や、治癒後の将来的な帯状疱疹の発生等を考慮するならば、現在の国内の状況は改善される必要があると思われる。今後とも水痘の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(48週)	高知県(49週末累計) H23/1/3~H23/12/11
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	2	1	2	1			6 ( 0.13)	3 ( 0.06)	2,781 ( 0.57)	12,353 ( 257.35)
小児科	咽頭結膜熱		2	3				5 ( 0.17)	1 ( 0.03)	1,166 ( 0.37)	328 ( 10.93)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	6	17	7		1	34 ( 1.13)	46 ( 1.53)	6,508 ( 2.07)	2,067 ( 68.90)
	感染性胃腸炎	15	45	188	34	46	34	362 ( 12.07)	293 ( 9.77)	22,064 ( 7.02)	7,734 ( 257.80)
	水痘		3	12				15 ( 0.50)	22 ( 0.73)	6,558 ( 2.09)	1,711 ( 57.03)
	手足口病	2	2	4				12 ( 0.40)	16 ( 0.53)	2,366 ( 0.75)	3,318 ( 110.60)
	伝染性紅斑			4	1	1	3	9 ( 0.30)	15 ( 0.50)	787 ( 0.25)	526 ( 17.53)
	突発性発疹		1	4	2	2	1	10 ( 0.33)	10 ( 0.33)	1,831 ( 0.58)	692 ( 23.07)
	百日咳			1	1			2 ( 0.07)	1 ( 0.03)	106 ( 0.03)	47 ( 1.57)
	ヘルパンギーナ		1	1			1	3 ( 0.10)	6 ( 0.20)	187 ( 0.06)	965 ( 32.17)
	流行性耳下腺炎		1	7	11		10	30 ( 1.00)	24 ( 0.80)	2,377 ( 0.76)	516 ( 17.20)
	RSウイルス感染症		3	25	4		2	34 ( 1.13)	30 ( 1.00)	2,749 ( 0.87)	760 ( 25.33)
	眼科	急性出血性結膜炎									30 ( 0.04)
流行性角結膜炎				1				1 ( 0.33)	3 ( 1.00)	375 ( 0.55)	57 ( 19.00)
基幹	細菌性髄膜炎								1 ( 0.14)	15 ( 0.03)	7 ( 1.00)
	無菌性髄膜炎									24 ( 0.05)	24 ( 3.43)
	マイコプラズマ肺炎			4			4	8 ( 1.14)	1 ( 0.14)	671 ( 1.46)	137 ( 19.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									24 ( 0.05)	11 ( 1.57)
計 (小児科定点当たり人数)	22 ( 10.50)	65 ( 9.23)	273 ( 24.31)	61 ( 20.20)	51 ( 25.50)	59 ( 11.00)	531 ( 17.33)				
前週 (小児科定点当たり人数)	13 ( 6.00)	89 ( 12.71)	261 ( 23.24)	44 ( 14.67)	29 ( 14.50)	36 ( 7.20)		472 ( 15.53)	50,619	31,254 ( 879.49)	

定点当たり

第49週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(48週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.50	0.09	0.13	0.20			0.13	0.06	0.57
小児科	咽頭結膜熱		0.29	0.27				0.17	0.03	0.37
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.86	1.55	2.33		0.20	1.13	1.53	2.07
	感染性胃腸炎	7.50	6.43	17.09	11.33	23.00	6.80	12.07	9.77	7.02
	水痘		0.43	1.09				0.50	0.73	2.09
	手足口病	1.00	0.29	0.36			0.80	0.40	0.53	0.75
	伝染性紅斑			0.36	0.33	0.50	0.60	0.30	0.50	0.25
	突発性発疹		0.14	0.36	0.67	1.00	0.20	0.33	0.33	0.58
	百日咳			0.09	0.33			0.07	0.03	0.03
	ヘルパンギーナ		0.14	0.09		0.50		0.10	0.20	0.06
	流行性耳下腺炎		0.14	0.64	3.67	0.50	2.00	1.00	0.80	0.76
	RSウイルス感染症		0.43	2.27	1.33		0.40	1.13	1.00	0.87
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	1.00	0.55
基幹	細菌性髄膜炎								0.14	0.03
	無菌性髄膜炎									0.05
	マイコプラズマ肺炎			0.80			4.00	1.14	0.14	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.05
計 (小児科定点当たり人数)	10.50	9.23	24.31	20.20	25.50	11.00	17.33			
前週 (小児科定点当たり人数)	6.00	12.71	23.24	14.67	14.50	7.20		15.53		

## 2011年週報推移(定点当たり)

